



初夏号 | No. 00013  
平成26年05月27日(火)  
発行 書肆べう  
ながしろぼんり

色々あった。

**ダ** イジエストである。長崎なんぞ四月の話であり、古くなった月餅みたいなものであるが、腹は壊さなそうだしこれ以上悪化する前に食っておこうか、みたいな気持ちである。これが温泉まんじゅうだととつとと徹しておる。

**前** 号の出島の前にハウステロンボスに向かっておった。長崎空港から高速船が出るのである。平日昼間の船、老夫婦など四名の客を乗せた船がモーターの爆音を響かせて大村湾を疾駆する。爆音に負けずに船内のテレビでハウステロンボスの観光案内映像が流れ続ける。この状態で約五十五分。長い。あ、でも成田に着いた外国の人も東京に着くまでにこんな感じなのかもな。

**オ** ランダを模したテーマパークなのであるう、んで、経営不振があつたけれども手腕経営者が来て立て直した、かなりの知識があつた。陸地が近づくにしたがつてだんだんそれらしき帆船が見えてくる、と思つたら「ワンピース」の船である。海賊の一行が停泊しておる。脱力。

**な** なんか垢抜けないんすよー。なんで垢抜けないんすかねー、ということ割とマジになつて観察しておつた。どんよりと曇っておる。こういうことを考えるのに非常に向いている。

**客** 層、だいたいアジアからの観光客四、修学旅行生三、家族旅行二、なんだかよくわからない人々一くらいの比率である。ちょうどシーズ



お前ら何しに来た

ンで、咲き誇るチューリップは非常にきれいだった。どこまで実が詰まっているかわからない煉瓦の建物もいい雰囲気と云える。だがしかし、ここに忽然と日本の廃病院が加わり、歌劇団が加わり、エネルギー科学館に恐竜の森に場ちよつと目眩がするよ、これ。



「カステラの城」というカステラ専門店入口行燈。食べられません

**要** するに、他がないのです。これが東京だったら、デイズニーランドと後樂園と宝塚劇場と109に分割できる。

ところがどっこいそうそう電車も通っていないし、分散させたつていいことない。じゃあ一か所に美味しいところを集めちゃおう、と考えた結果がこれである。お化け屋敷が固まって建っている区画に忽然とペッパランチが建つて

いるのはブラックユーモアだなあと思つたもんですが、何の肉だ！（怒られるぞ）

**そ** の結果、業績が改善した、というのだから、それに越したことはないんですが、でもそれだとやっぱりデイズニーにはかなわない。少なくとも「県を代表する観光地」ではなくってしまつた。いわば郊外のシヨップングモールの。で、垢抜けない。

**オ** ランダ面は非日常な感じに來たなあ、という気がする。



咲きそろうチューリップの裏で懸命に雑草を抜くおばちゃんの様子をご覧ください

**久** 五月のオイラン。々に多摩動物園にも行ったのである。もう五年以上前の話である。よく覚えていないが、客がいる限り芸をし続ける、サービス精神に

べう式「アタリ」は、書肆べうの発行する冗句と与太話のフリーペーパーです。出来れば各自でPDFをダウンロードし、プリンターなどを駆使してお楽しみください。A4版です。御連絡はbanric@gmail.com (ながしろ) まで。Website : <http://sbew.web.fc2.com/atari/>

**名餘百貳**  
**返金證**  
八年の難症三劍  
此村欽英堂

**西洋總販**  
特別減價 金拾五銭  
此村欽英堂

**良改**  
一本日  
此村欽英堂

あふれたゾウとか、頭上をモグラが走り回る館なんかの記憶だけあった。

**や** つばり数年いかないと変わるもんです。温室に大量の蝶が放し飼いにしてあって、蜜を吸う様子やなんかを観察できる。ということは写真も撮りまくり撮れまくりつちゆうことで、こんな私にも蝶が超簡単に（テンション高め）。もういいですかすみません。蝶も人に慣れるのね。



わあすげえ！ オオムラと喜んで  
サキだ国蝶だ！ ました  
いたら全然違いました

**同** 様に頃時やクジャクなんかの鳥の住んでいるところをウロウロできるようなものになっておる。ただ、鳥の仲間同士での縄張りがあるらしくて、限られた敷地内であつて、緊張感のある感じであつた。ちようど卵を温めたりしてるといふのが、クロトキが固



トキはトキでもニッポニア・ニッポンではないといふだけなので同じようにありがたがったりするとよい

まってもつそもつしておると迫力がある。鳥の目は感情がないから怖い、という人があいましたが、こうしてみると団欒しているのか何かに絶望してして呆けているのかわからなくて確かにだんだん怖くなってきた。タスケテ！  
**失** 念していたんですが。ちやうど動物は皆冬毛から夏毛に生え変わる時期だったんですな。それで、全体的に小汚い感じに。こういうこと書くとその筋のしとから怒られるのかもしれないが、でもこれですぜ、この下あたり

いろいろの毛の生え変わる立夏かな（赤胡）みんな野生です。気候に合わせるのも野生つ。陰囊が立派なもの野生つ。マレーバクの陰茎がぶらんぶらんするのも野生つ。食事中もしきりにぶらぶらする様子の写真があつたりするんですが、さすがにダイレクタなので掲載は控えます。動物園に行つて生で見よう！



陰囊は立派だか

文フリもあつた

## 前

号のあたりを五十部持つて行つたんですが、おかげさまをもちまして全部揚げました。無料だから捌けねえでどうする、という話でもあるんだが——それよりもだ。

## こ

のフィードバックの無さがすべてを表しておるな。タダでばらまく系の紙媒体が他で多すぎるのかもしれないが。五十部、読まれていても、1とも最高とも云われない点は反省せねばならない。反省と云つても何をどうしたらいいかはようわからん。もつと撒いたらええんかな。

## ズ

バツと云います。面白くなかつた。で、たぶん弊社の感性が枯れてきておるのです。みんな各自が一所懸命になつてモノ創つて持つて来てんだよオ、それでピンともシャンともしねえ自分の脳髓や心琴に絶望した。穴があつたら入りたいが、入つたところでどうつてえことも、ないんだこれが。悲しい話じゃ。

バックナンバーはこちら

弊紙「あたり」のバックナンバーはウェブサイトで

<http://sbw.web.fc2.com/atar/>

からご覧いただけます。

というわけで

文学フリマ、次回はよつぽど面白い企画でも掴まないかぎり出にくいという感じです。なんだろう、世間の人々にセンスがない、とか口が裂けても申しません。が、違う。あの場は違う。あれだけの盛り上がりを見せている場所が面白くない、という事実に衝撃を受けておる。

他

高校演劇論。IIの製作がひっそりと始まりました。順当に行けば来年の末あたりに出るんじゃないかと（裏側の事情に）期待しています。本紙でもなにか途中経過的に報告できることがあるかもしれません。

といった次第で、今号は以上。